



初戦敗退に無念の表情を浮かべる学院大ナイン



学院大、初陣飾れず

秋へ夢つなぐ大健闘

神宮・全日本大学野球選手権



九回裏、代打松井が左越えに本塁打を放つ

金沢学院大の硬式野球部が初めて出場した全日本大学野球選手権は六月十四日、神宮球場で2回戦が行われ、金沢学院大（北陸リーグ代表・1回戦不戦勝）は九州共立大（福岡六大学リーグ代表）に1-5で敗れ、初陣を飾れませんでした。

金沢学院大はエース森田（富山北部高出身）が立ち上がり、制球を乱して二回までに4点を失いました。三回から立ち直ったものの、打線が振るわず最終回に松井（富山一高出身）が代打本塁打して、優勝候補からの完封だけは免れました。

無念の敗退に終わり、神宮初勝利は今秋以降に持ち越された角尾監督は、「ミスをした方が負けることをあらためて痛感した。ミスをしない野球がこれからの課題」と話しました。

神宮球場には金沢からバス三台に分乗して駆けつけた、野球部の控え選手、野球部選手の家族、応援団、吹奏楽部員、教職員ら約百五十人が、三塁側応援席に陣取り、降りしきる雨もものかは、学院大ナインの一投一打に大歓声を上げました。応援席には宮

金沢から150人の応援団



応援団 声援をおくる応援団



新調の横断幕も張られた

本学長、上山副理事長、根本教授、平井教授も姿を見せた。せて、声援をおくりまし



強力打線を相手に力投した学院大エースの森田

発行・入試広報部